

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300738		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームわたしの家		
所在地	静岡県富士市大淵352-2		
自己評価作成日	平成23年3月4日	評価結果市町村受理日	平成23年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 igo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=22723

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	システムデザイン研究所		
所在地	静岡県静岡市駿河区馬淵2-14-36-402		
訪問調査日	平成23年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆったり」「のんびり」「自分らしく」を念頭にその人らしさを大切にかかわらせて頂いております。職員がチームごとの会議に全員参加し、その全員が意見を言える機会を作り、情報の共有を行っています。そこでケアの計画が変わり入居の方が、自分らしく暮らせる環境の整備を随時行ってきています。職員の質の向上に努めるために、研修にも積極的に参加を促し、チーム会では勉強会を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富士山に近い、丘陵地にある見晴らしの良い場所に立地している事業所である。母体である病院が筋向いにあり、急変時などの医療連携に安心できる環境にある。理念を礎に「抑制的にしない」「押し付けない」「先に行動しない」などの職員行動指針があり、それらを背景に利用者を尊重するための具体的な目標をチームで立て実践している。管理者は「あたりまえのことが自然にできる」人づくりを目指しており、ベテランになってもアドバイスや注意を素直に受け入れることを大切に考えている。日頃の指導もあってか、職員は朗らかで親切であり、利用者へ穏やかな接し方ができている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は見やすい場所に掲示しており、実践の状況をホーム会にて確認し合っている。新入職員には入職時説明を行っている。自立支援を念頭に置き日常を過ごしている。	理念を土台として毎月具体的な目標を作成し、常に意識ある実践が行われるよう工夫している。ただし、利用者の重度化が進み、職員の意識及びスキル向上が追いつかない点も見られ、マンパワー補強などの対策を管理者は考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、行事に参加している。ホームでの行事にもボランティアで協力を得ている。福祉展への出品作品にも取り組んでいる。	母体の病院には「ふれあい交流室」があり、ボランティアが提供するメニューが豊富であるため、上手に活用している。生徒の福祉教育や実習生の受入も行い、外部との交流を重ねている。	平成22年度の受入実績は、生徒が4名、実習生が1名のとのことであるので、今後は回数(人数)を増やしていく工夫を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも見学ができる環境を整えている。実習生の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回を目安に開催している。議題になった問題点など意見をいただいたりと活用している。	地域の貴重な情報をもらえるため、利用者と職員が地域の人とふれあう機会を得ることが多く、会議での話し合いが運営に役だっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修参加を行っている。	市の担当者は運営推進会議のほかに家族会にも参加してくれている。そのため、よい関係が築けている。市からの講師依頼などの要請は母体の病院が受けており、事業所の実績はない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会での日常の振り返りを行い、拘束しないケアの実践を行っておりホーム会等で振り返りを行っている。	ゼロ宣言をしている。外部研修にも年2回参加し、都度所内で口伝研修をしている。やむを得ない場合に必要となる書面などの備えはない。	緊急やむをえない場合「切迫性」「非代替性」「一時性」の要件を満たし取り組むことができるよう書面を備え、かつ本書面について職員研修に取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で日常の振り返りを行い、虐待防止への意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や併設の病院職員研修に参加し、話愛を行い学び合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をいただき説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿にアンケートを記入する項目を設け、職員と話し合いながら反映させている。	面会時にアンケートを用意し、要望を集めるようにしている。また、家族にはプラスの言葉で日頃の様子を伝えるようにしており、家族からもプラスの評価をもらっていることで職員の動機づけになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面接を行いながら、意見や提案を聞いている。それ以外にも意見を言える機会を設けている。	小集団(チーム制)にしたことで意見を言い易い雰囲気が生まれている。実際、若い職員も意見が言えている。年1、2回個人面談を行い、要望を聞く機会として支援・協力の体制を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力評価など行いながら各自向上心が持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を促しながら、併設施設の研修参加を行っている。勤務表作成時に取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会や、交流会に積極的に参加している。他のGHへの実習も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員にも先に馴染まれ、安心して頂けるように本人の生活状況を事前に情報収集し安心して頂けるように、関係づくりに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望を取り入れながら、日々の情報を伝えて意見を頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況をご家族と情報共有し話し合いながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に気持ち良く役割が出来るように関わりを持ちながら、時には職員が教えて頂く事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月本人の状況をお便りでご家族に伝えている。緊急の時などは連絡をし相談し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時等、ゆったりと過ごせる環境を整えている。	意思の疎通などのコミュニケーションがうまくいかない利用者もいるため、家族や親戚の面会時には職員が間に入るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関われる場の設定や、中の良い方たちが共に入浴する等との時の状況で職員が関わりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞いに行ったり、葬儀に参列する等努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報や、職員間の話し合いを行い、本人本位で検討し合っている。	家族からもらった情報のほかに、「今、この」状態をよく見ることを大切にしている。家事やレクなどのアクティビティを積極的に提供し、利用者を主人公にできる新たな発見を得ており、ニーズからウオンツの掘り起こしができている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や、これまでの経過を個々にファイルしてあり、新入職員にも把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康チェックや、介護日誌から把握できるように記録し、朝の申し送りで報告していくなど情報の共有ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	説明時に意見や要望をいただきながら、ケアプランに反映出来るように作成し、職員が共有できるように介護記録と共にファイルに挟んである。	担当制とすることで職員一人ひとりが責任をもって取り組む仕組みができているほか、職員がプランを常に意識し実践できるよう「生活援助計画(プランを具体的に分かり易く表したものの)」が毎月作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・月ケアプランに記入しながら実践している。ホーム会で話し合いながら見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族とともに、病院受診を行うなど状況に合わせて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	GH連絡会の交流会に参加・ボランティアの受入れ等行い支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療があり主治医との情報共有を行っている。	在宅時のかかりつけ医の場合は家族に付き添ってもらっている。看護師が週1回、提携医師は月1回の訪問がある。歯科医の訪問も年2回程度あり、口腔ケアの指導を受ける機会もある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの情報の共有を行いながら、支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族との連絡や、入院先に出向き本人の状況も伝えている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの指針のあり方にはご家族に説明できている。主治医とご家族との話し合いを重視し取り組んでいる。	契約時に方針や体制を説明し、家族と合意できている。ただし、状態変化に応じて医師の診断をおおぎ、かつ家族の意向や想いを確認しつつ、柔軟に進めることにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は、緊急時の対応マニュアルを周知している。研修を行いながら実践力を身に付けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設の応援態勢があり、昼夜を問わず避難できる方法を職員とともに模索し身につけている。	本年度の課題であった「地域とともに取り組む避難訓練」については、事業所職員が地域の防災訓練に参加するに止まっている。地域の皆さんに事業所に来てもらうアクセスなどに困難があったためであり、引き続き課題が残る	今回起きた地震では職員や母体の病院からも駆けつけてくれたとことであるが、地域の人の協力も得られるよう期待する。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が選択できるような言葉かけを行いつつ対応している。	基本的なことではあるが、トイレ誘導は周りの人へ声が届かないよう、またカーテンやドアの開け閉めなどに十分配慮している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自分の思いを話せるような環境作りや、自己決定ができるように働きかけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースをたお説にし、本人状態を考慮し、希望が気軽に伝えられる環境作りを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に洋服を選んでもらえる状況作りや、併設施設より本人希望にて美容師にホームに来ていただいている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から入居の方が出来ることをやっていたり、調理の香りや音で食事時を感じて頂きスタッフとともに召しあがっている。片付けも役割として行っている。常にスタッフは感謝の気持ちを伝えている。	屋上に畑があり、新鮮な野菜が並んでいる。食材の買い出しに利用者に行くこともあり、準備も一緒にしている。誕生日には行事食として、利用者の好みのものをメインに準備している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定や、食事量・水分量の把握に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをスタッフとともにしながら、本人の力量に応じたケアを心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するとともに、さりげない言葉かけを行う等日々繰り返しながら支援を行っている。	排泄パターンを把握し誘導した結果、トイレでできるようになった人もいる。また、歩ける人は歩いてもらい、牛乳やヨーグルトを使ったりなど、スムーズな排泄への支援も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量を個々に把握し、カスピ海ヨーグルトを使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の入浴したいタイミングに合わせ入浴を行っている。本人が入浴したいと思える話しかけも行っている。	湯は毎日はっていて、体調が悪いとか拒否がなければ365日入ってもらっている。マンツーマンでの対応で、利用者と職員が会話を楽しんでいる。入浴時間は15時～で、希望があれば夜間も応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態を観察しながら行ってきている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認や服薬指導があり、状態の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のその時の状況を踏まえながら、気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や、雰囲気を感じながら散歩や外出に出向いている。	「バラを見ながら歩きましょう」「アイスクリームがありますよ」というように、意欲が湧くような楽しみを提案することで外出支援をしている。また、管理体制にも限りがあるため、職員に休日ボランティアを募り、外出の機会を増やす工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時等に様子を伺いながら支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状況により支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や季節の壁紙をスタッフとともに作成し飾るなど工夫している。	玄関に職員の顔写真と名前があり、来訪者に分かり易い。換気は1日に1回以上行い、温・湿度管理にも取り組んでいる。自宅にさながらにテレビをつけたり、炊飯を始めたりすることに利用者が関わっていて、職員に知らせる役割をもっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが不安なく生活できるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を配置するなどの工夫を行っている。	居室にはタンスなど馴染みのある家具を持ち込んでもらうようにしている。毎日の掃除以外に部屋の汚れに応じて、重点的な掃除もしている。防災カーテンを持ち込んでもらうなど、レイアウトの工夫が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人が不安なく生活できるように工夫している。		